# 3-3 河川の自然環境からみた課題

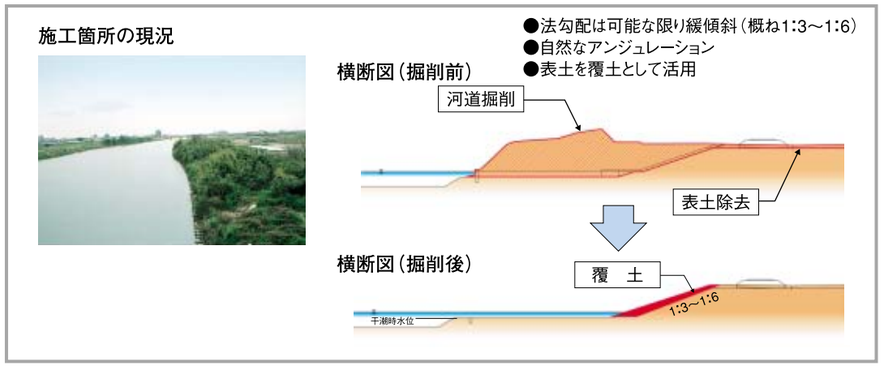
## （1）生態系の保全と再生を図る

### ① 治水との調和のとれた環境保全を行うこと

治水事業の実施にあたっては、生物の生息場や生物の移動経路の分断や改変による環境への影響を最小限に抑えるように配慮することが重要です。

のり面こう配をできるだけ緩くして水辺の連続性を保ったり、ヨシなどの根が残っている掘削した土を工事後に表面に戻して植生が回復しやすくするなど、自然が持つ回復力を見込みつつ、自然環境と調和のとれた整備をする必要があります。

河道掘削（護岸施工）時の環境対策（激特事業の例）




### ② 河川内に残された自然環境の保全や再生を図ること

都市の中を流れる河川でありながら、土岐川庄内川には豊かな自然環境が残されています。その特性を生かし、河口部や渓谷部をはじめ、河川内に残されている貴重な自然資源を、本来あるべき姿に保全や再生していくことが大切です。

また、自然環境の保全や再生は水環境とも密接に関係していることから、効果的な整備のためには、水環境の問題と一体的に取り組む必要があります。

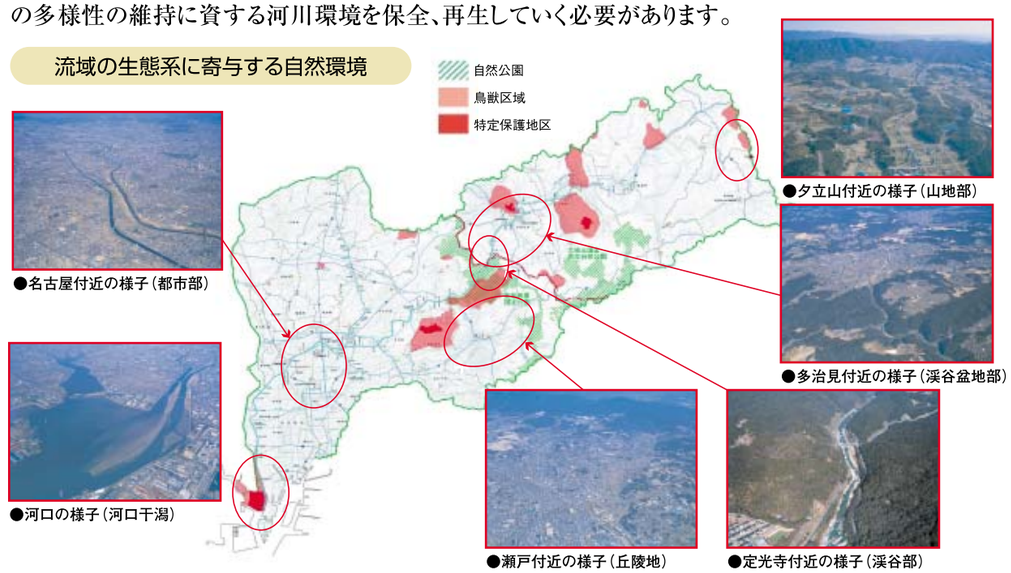
土岐川庄内川の豊かな自然環境

### ③ 流域圏の生態系に寄与する河川環境の保全や再生を行うこと

土岐川庄内川は都市域における貴重な自然空間であり、流域圏における自然空間の広域的なネットワークの幹となるものです。

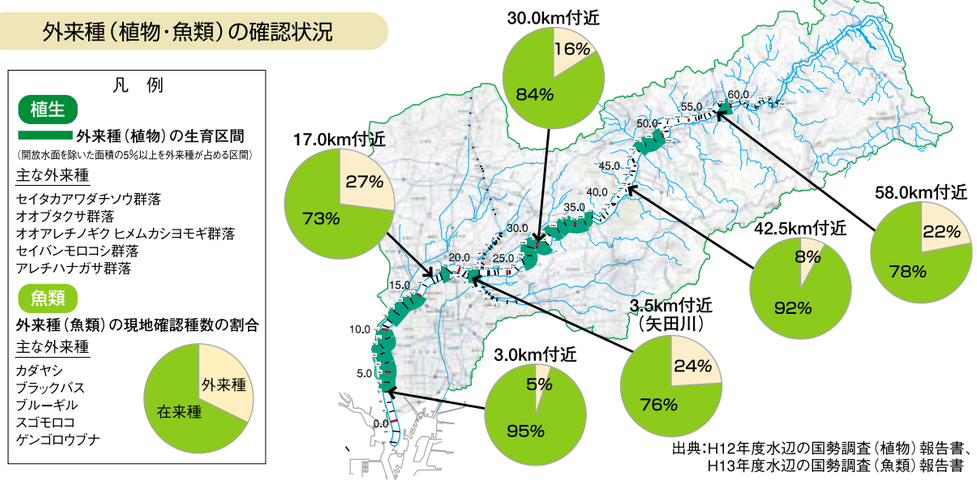
その特性や役割を踏まえ、土岐川庄内川を生態系の主軸として、その支川や、上流域の山林、中下流域の里山、田園、ため池、水路、寺社林、公園などに残された自然要素と連携しながら、生態系の多様性の維持に資する河川環境を保全、再生していく必要があります。

流域の生態系に寄与する自然環境




### ④ 動植物の外来生物対策を適切に行うこと

土岐川庄内川の流域では、ブラックバス、ブルーギルやミシシッピアカミミガメなどが至る所で見かけられるようになり、在来種よりも一般化している箇所もあります。また、危険な動物の生息が確認されたり、外来動物による農作物への被害や外来植物が在来のヤナギ類を押しのけ、旺盛に繁殖している所もあります。

この様な外来生物による生態系バランスの変化に対しても、適切な対策を行う必要があります。

外来種（植物・魚類）の確認状況